

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 30 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270500608		
法人名	有限会社 ふぁみりい		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームふぁみりい		
所在地	〒856-0045 長崎県大村市向木場町 1265 番地		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 15 日	評価結果市町受理日	平成 26 年 1 月 22 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25 年 12 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

職員一同明るい笑顔で、日々楽しく介護しながらも、入居者様の体調不良、早期発見、主治医との連携をとり、健康管理に努めています。
1年に1回、入居者様、御家族様と一緒に一泊旅行に出掛け、楽しい思い出作りを実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

飾らない会話と笑いに溢れ、入居者の落ち着いた精神的満足が感じられるホームである。入居者にできることをして頂くことで、職員が感謝を表す場面も多く、職員は、明るく人懐っこい雰囲気があり入居者との距離感が近いが、プロフェッショナルな意識も高く、常に自省し、また繊細に状況判断や観察を行ない支援に生かしている。また、職員が互いに労いの気持ちを持ち、また勤務のシフトや変更など柔軟に行っており、和気あいあいとして何事にも全力で取り組んで行こうという気持ちが見受けられる。一泊旅行や夏祭りなどを通して家族とも親しい関係を築いており、家族がボランティアに来てくださったり、行事の際に他の入居者をフォローしてくださったりと暖かい関係が広がっている。DVD 作成や車椅子での外出など、職員がそれぞれに持てる能力を生かして、ホームとしてできることも広がってきており、また重視している健康管理も主治医やかかりつけ医の支援により充分に対応できている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人一人を個人として尊重し、地域に溶け込んだ暮らしや出来る事は何でもしてもらおうことを目指した理念を掲げ、職員一同で理念を共有している。第二の理念として「宝物、この皆が宝物」を掲げ、職員一同実践している。常に感謝の気持ちを持ち、安心して暮らして頂ける様に日々実践している。	入居者と職員は家族のようにお互いを思いやる関係を築いており、入居者が進んでお手伝いをして下さり、職員が「ありがとうございます」と感謝を表す場面も多い。職員の多くが認知症実践研修を受講し、理念の実践に生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り地域の情報を得ている。ホームの夏祭りに地域の方を招き、交流を深めたり、各種学生の実習生を受け入れている。また、地域の方より柿ちぎりや梅ちぎり等のお招きもあり、日常的に親睦を深めている。	ホームの「夏祭り」は地域の方も楽しみにされている。家族と共に、地域の方が準備を手伝い、出し物を出し、入居者と一緒に唄を歌ってくださるなど楽しい時間を共有しており、子供たちの参加もある。また受け入れた実習生たちのその後の訪問などの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催にて、活動報告、写真を掲示し具体的に理解してもらっている。愛犬ポコにも近所の方々からも散歩時、声かけてもらい、顔馴染みの関係を作っている。夏祭りにも地域の方々に参加して頂き、恒例のパナナの叩き売りも披露してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告後に意見、要望をもらいサービスの向上に努めている。また、会議同日にホーム行事や避難訓練を行ない、委員の皆さんにも参加してもらっている。会議委員が欠席の場合は報告書を手渡している。	会議を行事等と同日開催で行うことで、入居者をよく知って頂き、更に有益な意見を頂く機会とすることができている。また参加者メンバーから、自然災害の起きやすい場所や地域の情報など教えを頂く場ともなっている。	

5	<p>4 ○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>包括支援センターより介護相談員の受入が2が月に1回あり、内容を職員間で回覧している。運営推進会議のメンバーとして行政にも参加してもらい、会議後は報告書を提出している。毎年、大村市が行っているチャレンジデーにも、入居者様一同参加している。</p>	<p>大村市長寿介護課から運営推進会議への参加があり、その際に入居者と触れ合い、現実を踏まえた意見が頂けている。運営推進会議の報告書や案内を窓口を持参して、何でも話せる関係を築くよう勤めている。</p>	
6	<p>5 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は日中施錠はせず、外出しそうな利用者には一緒について行く様になっている。拘束のないケアに努めているが、転倒防止のためのベッド柵使用は、主治医に必要性を明示してもらい家族に同意を得ている。研修等にも参加し、理解した上で、身体拘束のない様に取り組んでいる。</p>	<p>管理者をはじめとして職員には身体拘束を行うことは論外だという意識が定着している。毎年研修や伝達講習を行い意識は統一されており、困難な状況は見守り、寄り添うことで解決に導いている。</p>	
7	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員、関連資料の閲覧等を行ない、声かけひとつでも虐待になっていないか注意し、防止することに努めている。</p>	/	/

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修時、資料としての権利擁護、成年後見人制度の回覧、必要時ホームにて職員全員目を通してしている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、管理者より契約書を交わし、十分な説明を行っている。不明な点は、いつでも質問を受ける態勢である。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回のケアプラン説明時に家族から苦情や要望、相談等を聞き、記録を取り、職員間で回覧し確認している。また、面会時にも声かけして、何でも気軽に話せる雰囲気作りに努めている。苦情等についての内部・外部の相談窓口は廊下に掲示しており、苦情処理対処要綱を家族に渡している。	家族には行事参加や一泊旅行を通して職員の人柄やホームの雰囲気を知っていただいております。意見の出しやすい環境となっている。入居者には普段から旅行の話やクリスマスプレゼントなど楽しい会話の中で様々な要望を聞き、反映させている。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に休憩時間等に職員の意見や要望を聞いている。例えば、比較的元気な利用者の個別の買い物の時間を設定や人員配置を行っている。	管理者と職員は和気あいあいとした関係を築き、また代表者にも要望を上げられる関係ができています。出された意見により支援の時間確保のための物品の一括購入システム利用や職員の研修参加の補助などが行われた。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>努めている。 個人的にも、予備自衛隊訓練参加で、数日の休みでも各職員の理解を得ている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>連絡協議会や勉強会等に参加し、交流している。 グループホーム協議会主催での相互研修にも参加し、質の向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族・関係機関より情報提供を受け、本人様の安心を得られる様に常にコミュニケーションを取り、情報収集・職員間での情報の共有を行い、本人様との信頼関係を築く様に努めている。入居時、玄関に歓迎の垂れ幕を作り、笑顔で出迎えている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の悩みや不安等を聞き、その内容を理解し、本人様の情報提供がお互い出来るように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>「まず、ここで安心出来る居場所を作って下さい。そして日々楽しく過ごして下さい。」の声かけ、見守りに努めている。その第一歩は笑顔が増えたと思って頂く事の実践に努めています。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊かな人から学ぶ気持ちを忘れず、趣味・特技を見出し共に、日々の生活の中で、共感・共有しながら、出来た喜びを分かち合う同士としての気持ちを忘れず介護している。一番近くで寄り添いながら過ごしてもらう様に努めている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一番の頼りは家族を忘れずに、連絡を密にして面会時には輕易に生活状況等をお伝えすると共に、各種行事に招待している。年に一度の一泊旅行は家族と一緒に一夜を楽しく過ごしてもらう様に配慮し、信頼関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのダンス・鏡・洋服・写真等を持ち込んでもらっている。又、時には自宅へ外出したりと、関係継続の支援に努めている。時には通院時に住み慣れた自宅を車内より見たりしている。	ホームは気兼ねのいらぬ雰囲気があり、家族や友人、地域の方の訪問がある。車椅子使用の入居者が男性職員2人の介助で仏壇に手を合わせるため自宅訪問を行い、更に親族との会食に繋がったり、釣りの同行を行ったこともある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が常に心がけ、声かけ等を行い利用者間でのコミュニケーションを図っている。又、掃除、洗濯物たたみ等、出来ることは無理の無い程度に手伝ってもらう様に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機能低下に伴う退所時には、連携機関・病院等への紹介、又は家族の同意を得ての面会に行かせてもらっている。各種行事には、家族様への参加の呼びかけを行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の生い立ちを事前に把握し、本人様・家族の介護に対する意向・希望を適宜聞き入れ、出来ることは即実行。困難な場合には段階を追って実現出来るように実施している。洗濯物たたみや掃除、食事の準備等利用者との日常の関わりの中で、会話や表情等から把握している。職員間で情報を共有し利用者個々にあった支援を行っている。	入居者はホームを自宅であると認識してリラックスして職員との会話を楽しまれており、何でも話せる関係となっている。職員は見守りと観察を重視して、その時々を思いを敏感に把握し、個別の外出や気分転換のドライブなどに繋がった。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし等を聞き、何を一番したい？何を一番食べたい？（適時に意が変わる為）等を聞きながら、これまでの暮らしの継続に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の状況をしっかりと観察し、職員間で情報の共有をしている。又、情報に基づき、現況を見極める様に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始時に聞き取った希望や意向、生活歴を基に管理者、ケアマネージャー介護計画を作成し、家族に同意を得、職員に回覧している。アセスメントとモニタリングを繰り返しながら3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行っている。	アセスメントシートの作成は全職員で行い、プラン作成は計画作成担当者が行っている。以前には担当職員がプランのたたき台作成まで行ったこともあり、プランに沿った支援についての理解が深く、充実した支援を行うことができている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の思い、言動、介護の実践、結果、反省事項、反映事項等を記録、共有し計画の見直しに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームにて家族の意向により、ターミナルケア、その他、退所・死亡後には葬儀に参列。初七日、命日にはお参りさせてもらい、亡き入居者様を偲び家族様との信頼関係を続けている。御家族様も時にはホームへ来設され、お土産等を持って遊びに来て下さっている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	みかん・柿・梅等を頂いたり、ボランティアの受け入れ、子ども達の学校帰りの立ち寄り、体験学生の受け入れ等、地域の方々の力を借りつつ、ふれあいの場を作り、楽しんでもらう様に努めている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近医のクリニックを主治医としてもらい、定期的往診・臨時的往診、必要によっては、点滴治療してもらっている。重度化の場合は、主治医より直接家族様への症状説明を行ない、家族様の理解を得て、医療センターへの受診、入院等の配慮もして頂いている。	入居者の希望に沿って支援している。自然と近隣のクリニックをかかりつけ医とされる入居者が増え、プラン作成の際に所見を頂いたり、他医療機関への紹介、遠方の家族へ書面での説明など、多くの面で協力をいただいている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康管理に努め、些細な気づきにも観察・早期発見に努め、看護職（管理者・計画作成担当者）に相談。状況により、主治医受診、早期治療に努めている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて、情報提供してもらい関係を作っている。入院中は、職員の面会にて経過観察、退院時には玄関にて「退院おめでとう」の横断幕にて全員で感激している。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは原則行わない方針ではあるが、過去に看取りを実施した事例はある。状況に応じ、また職員の同意があれば看取りを行うようにしている。看取りに関して、実施するかどうかの方針は・・・	医療面で常時の支援を必要としない状況では、家族と協力して希望に沿った、入居者にとって一番良い形での支援を行っている。かかりつけ医や看護師の協力を得て、一時的な状況には対応できており、職員も支援のためのレベルアップを図って行きたいとしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、マニュアルを作成し、速やかに対応している。年に一回程度、消防によるAED操作、心配蘇生法の指導を受けている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会の下、運営推進会議の場を利用し、年2回の夜間想定での避難訓練を実施しており、地域住民の参加もある。また、ホームの地下には断層が通っていることもあり、地震マニュアルを整備している。	地域の方にも参加頂いて火災時の避難訓練を行った。地域の方に自然災害の情報を求めるなど防災の意識は高い。職員は夜勤に入る時に火災時の対応をマニュアルで復習したり、大村市の消火器操法大会に参加するなどしている。	暖房装置の設置状況について、安全確保の観点からの振り返りを期待したい。備蓄については、水や食料品など緊急時に有効な備えとチェック表による一括管理が望まれる。また、地震マニュアルに沿った訓練の実施も期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人や人格を重視した対応を常に心掛けている。 入居者との会話や日常生活の中でいつも感謝の気持ちを持って接している。笑顔で、言葉を惜しまずコミュニケーションを図り、自立心を大切にしながら精神的満足が得られるよう支援している。また職員はその場に応じた親しみの持てる言葉かけと同時に自省を忘れないようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に「何がしたい」「どこに行きたい」「何が食べたい」を聞きつつ、出来ることは、即実行している。出来る限り、本人様に自己決定して頂いている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごしてもらえる様に努めている。 その人のペース、趣味を見つけ、その人らしい暮らしが出来る様に努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時出来る方は、着替えを自分で準備してもらっている。外出時には男性は髭剃り、女性は化粧して、髪飾りを付けたりと常におしゃれには気遣っている。定期的に出張美容室にて散髪したり、直接美容室に出かけ散髪したりしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけにて食べたい物を聞き出したり、本人様に一緒に作ってもらったりしている。又、つぎ分け、食器洗い等手伝ってもらっている。料理に参加できない方には味見をしてもらうこともある。 職員も一緒に食卓を囲んで、入居者お一人ひとりに気配りのある言葉を掛け笑い溢れる食事時間となっている。入居者にお手伝い頂きながら、地域の方からの頂き物、菜園の収穫物、旬の素材などを使った家庭的な美味しい料理を提供している。

41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各食の食事摂取量を記録として残し、水分補給もしっかりと摂ってもらっている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの施行、日誌にての確認、記録。歯科医院往診時に説明してもらう。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日勤日誌、夜勤日誌等での状態把握。トイレ時の見守り・声かけは特に重視している。入居後は、状態把握しながら、徐々に布パンツへの移行あり。	夜間は布パンツの方、紙パンツの方が居られるが、職員はタイミングを合わせた声掛けと敏感に察しての支援を行っている。その方のその時の気持ちに配慮した支援により、自分のペースで安全にトイレを使用し自然な形で自立に向かわれている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維性食品の取り入れ、水分の摂取に努めている。排泄チェック等で排便の有無を毎日確認している。必要に応じて、緩下剤・坐薬の使用、下痢時には整腸剤を使用している。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日出来るが、原則は一日おきとなっている。基本的には午前中に入浴としているが、状況により、午後に対応する事も希にある。入浴時には個々に合わせて職員・入居者の一対一での入浴、おしゃべりと楽しい入浴に努めている。入浴拒否者には、職員と一緒に入浴することにより、拒否されることが無くなったという事例もある。	入浴は、入居者と職員が一対一でゆっくりと話をする時間となっており、昔話や家族の話や唄など一緒に楽しみリラックスができています。できることを自分でして頂き、職員は尊厳を大切にしながら安全確保を行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様に合わせ、自由に休んでもらっている。		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報の共有をしている。服薬時には三度の確認を行い、誤薬の防止に努めている。服薬後は記録に残し、他職員が再確認している。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に合わせて対応している。不得意なことには無理強いせず、職員が介入したりしながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物等の外出、散歩、季節毎のお花見、家族様参加での一泊旅行等を行っている。	一泊旅行は入居者にとって生活のモチベーションともなっている。行事としての外出の他に、大村公園や空港周辺など近距離のドライブでの気分転換や美容院や買い物など日常的な外出があり、入居者の希望に沿った自宅訪問など個別対応も行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の家族の方より、入居時に事務所金庫にてお預かりし、出納帳に使用内容を随時記録し、月に一回は家族様への残金の確認をしてもらっている。必要時は、支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応している。送られてきたハガキ等は居室の壁に貼り、いつでも見られる様、支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには季節感を味わえるようにその時々のお花を飾り、廊下壁には入居者様の行事の様子のスナップ写真を飾り、家族様の面会時に見てもらおう。入居者様にも見てもらい、回想療法の一環としている。	穏やかな色合いで家庭的な雰囲気のあるリビングは、入居者が集まる語りやお手伝いの場となっている。広い廊下に置かれたソファも入居者同士の会話や笑顔の溢れるくつろぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファを設置し、共にくつろいでもらっている。一日でゆっくりとくつろぎたい方は、リビングのテレビ横に一人掛けのソファを準備しており、そのソファに座ってもらいくつろいでもらっている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使われていたタンス・鏡台・布団・テーブル等を持ってきてもらい、馴染みの中で過ごしてもらえるようにしている。	入居者は畳敷きの居室で布団やベッドなど好みや、状況に合わせた寝具を使用して落ち着ける生活の場とされている。持ち込みの品も自由にレイアウトして自分らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示・居室入口の名前のプレートを設け、個々に合わせた、声かけ・見守り等、自立を妨げないように努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない